

## モデルプログラム B-3 外国人児童生徒等の教育の背景・現状・施策

### －社会的歴史的背景－

ねらい	外国人児童生徒等が増加し多様化していることと、その来日に社会的歴史的な背景をもつケースが多いことを知る。
対象	<input checked="" type="checkbox"/> 教師を目指す学生(教員養成課程他) <input checked="" type="checkbox"/> 日本語教育を学ぶ学生 <input checked="" type="checkbox"/> 現職日本語指導担当教員 <input checked="" type="checkbox"/> 現職一般教員 <input checked="" type="checkbox"/> 管理職 <input checked="" type="checkbox"/> 指導主事 <input checked="" type="checkbox"/> 日本語支援員/母語支援員
日本語指導・外国人児童生徒等教育の経験	<input checked="" type="checkbox"/> 経験なし <input checked="" type="checkbox"/> 1年目 <input type="checkbox"/> 2-4年 <input type="checkbox"/> 5年-9年 <input type="checkbox"/> 10年以上
高めたい資質・能力	<input checked="" type="checkbox"/> 捉える力(子どもの実態把握) <input checked="" type="checkbox"/> 捉える力(社会的背景の理解)      育む力(日本語・教科の力の育成) <input type="checkbox"/> 育む力(異文化間能力の涵養) <input type="checkbox"/> つなぐ力(学校作り) <input type="checkbox"/> つなぐ力(地域作り) <input type="checkbox"/> 変える/変わる力(多文化共生社会の実現) <input type="checkbox"/> 変える/変わる力(教師としての成長)
主な内容	B 外国人児童生徒等の教育の背景・現状・施策
活動形態	<input checked="" type="checkbox"/> 講義型 <input type="checkbox"/> 活動型 <input type="checkbox"/> フィールド型 <input type="checkbox"/> 実習
時間	60分
流れ(・項目)	活動(◇活動の工夫)
1. 地域・学校が多文化化している状況を知る。(15分) ・外国人児童生徒等の現状と背景(B)  2. 外国人児童生徒等の来日の経緯について知る。(40分) ・外国人児童生徒等の現状と背景(B) ・地域の特性(B) ・多文化共生教育(A)  3. 日本にいる外国人児童生徒等の背景について確認する。(5分)	1. 受講者同士の交流により学校内が多文化化していることに気づく。 1) 外国人児童生徒と接した経験について話し合う。 2) 在留外国人統計(法務省)、「日本語指導が必要な児童生徒等の受入れ状況に関する調査」(文科省)のデータから国内のグローバル化、学級に言語文化の異なる子どもたちが在籍することが「特別ではない」時代であることを理解する。 ◇集住地域のみ注目しがちであるが、散住地域にも集住地域とは異なる課題があることにも触れるようにする。  2. 映像資料、出版物、統計等から、国内の外国人児童生徒等の来日の経緯を知る。 1) 90年代からの外国人労働者の増加の背景を考え、理解する。 2) 子どもたちが「本人の意思にかかわらず」来日していることを理解する。同時にその移動に対する子どもの気持ち・ストレスを理解する。 ◇必要に応じて、出版物、映像資料などを活用し、「リアリティ」のあるものにする。 3) 難民、中国帰国者、日系人、在日コリアンの来日の歴史的経緯について知る。日本語指導が必要な児童生徒だけでなく、日本語指導が必要でない児童生徒の文化背景を尊重する必要性を理解する。 4) 国際結婚家庭の増加、それに伴う文化間移動について知る。  3. 外国人児童生徒等の文化的、言語的背景の多様性、その歴史的背景について確認する。
備考	